

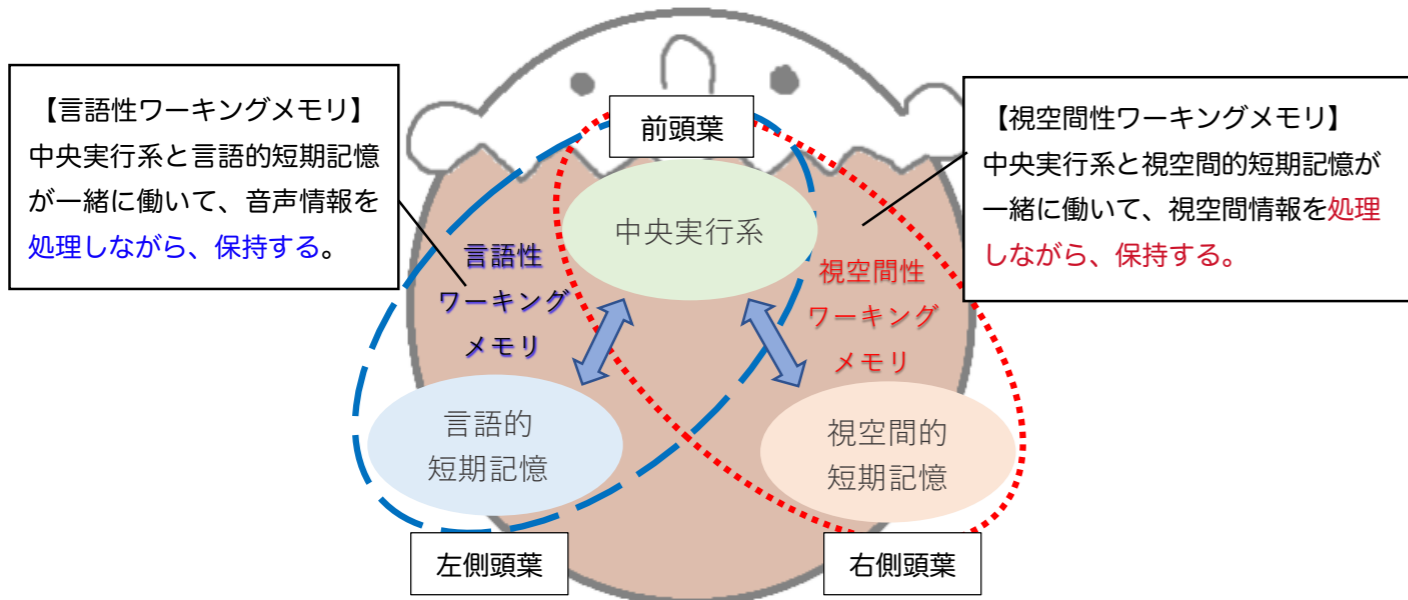
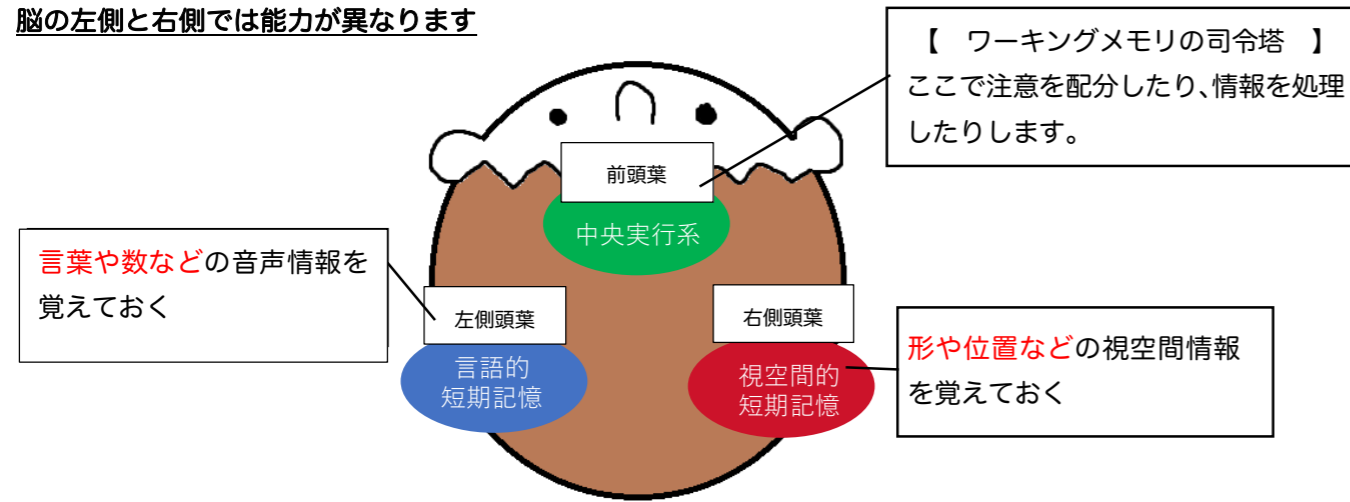


学習を支える力
～ワーキングメモリって?～

前回、計算とお買い物を例にワーキングメモリが情報を一時的に覚えておき、目的に合わせて取り出して考えるものであると説明しました。今回はさらに詳しく説明します。

前提として・・・。

脳の左側と右側では能力が異なります



このように、脳の左側と脳の右側は、それぞれ、音声情報と視空間情報を相対的に独立に取り扱っています。

ワーキングメモリの4つの側面

<p>言語的短期記憶が弱いと...</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先生の指示をすぐに忘れてしまう ●算数の時間に九九がなかなか覚えられない <p>など</p>	<p>視空間的短期記憶が弱いと...</p> <ul style="list-style-type: none"> ●板書をノートに書き写すのが遅い ●三角形や四角形の性質について理解したり、絵や模様などを書き写すのが苦手 <p>など</p>	
<p>言語領域</p>	<p>記憶</p>	<p>視空間領域</p>
<p>記憶・処理</p>		
<p>言語性ワーキングメモリが弱いと...</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し合いのある活動になかなか入れない。話についていけない。 ●作文や日記を書くのが苦手 ●算数の文章題・読解問題につまづく <p>など</p>	<p>視空間性ワーキングメモリが弱いと...</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ラジオ体操やダンスなどの一連の動作を覚えるのが苦手。 <p>など</p>	

学習や日常生活でのつまずきの背景に、ワーキングメモリの問題が隠れていることがあります。

ワーキングメモリで一度に記憶・処理できる容量には大きな個人差があり、ワーキングメモリの容量が小さい子供は、一度にたくさんの情報を与えられると、いっぱいいっぱいになってしまい、必要なことが頭に入らず出来ないと感じてしまうことがあります。つまずきの要因がどこにあるのかをアセスメントしていくことが重要になります。

< 参考 >

湯澤正通,湯澤美紀.ワーキングメモリを生かす効果的な学習支援.初版;2017
湯澤正通,ワーキングメモリの発達と児童生徒の学習：読み書き・算数障害への支援,2019